

原初の水の深淵からの天地創造 (古代オリエントの宇宙観)ー宇宙観史(神話時代)ー

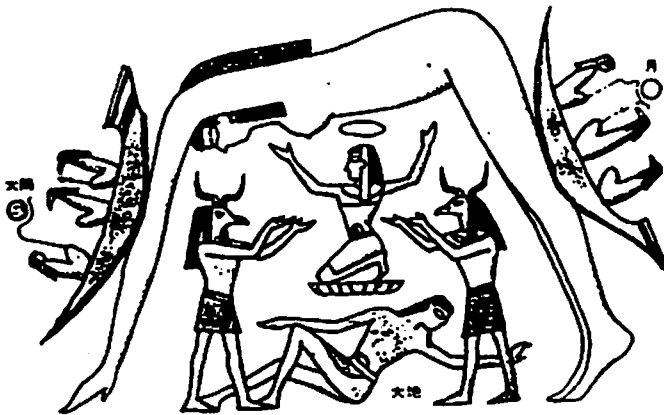
古代オリエント：紀元前5000年ー紀元前後のエジプト、シュメール、バビロニア

古代エジプトにおける農業の発生と

シュメール、バビロニアにおける都市の発生と文字の発明。

..1古代エジプト人の宇宙

「二つの大河の間に巨大な天蓋で覆われた平たい島」



..2古代エジプト人の太陽賛歌

太陽が沈むと暗闇が地面を包み込むばかりでなく、急速に冷える砂漠から来る冷氣がナイル河谷に下降してきた。古代エジプト人は太陽の光と熱なくしては死がこの世を襲うと考えたと思われる。

..3生死をもつ生きた統一体としての宇宙

成長（生成）・死滅，誕生・死の概念を有する宇宙

無時間の概念

ーナイル河谷の単調な生命の規則性，太陽の毎日の出入り，ナイルの毎年の増水と減水など

神と人間との間には明確な区別はなく，両者は連続的であった。

..4古代エジプト男女の神神

抽象的観念を表現するための人格化の使用したが，中性の言葉を持たなかった：

男女の神神

1.5 古代エジプトの3つの宇宙観

3つの宇宙観：

ヘルモポリス
ヘリオポリス
メンフィス（メンピス）

共通の基礎原理（基礎的仮定）：

「事物の始まり以前には、至るところ、
限りなく、どの方向にも、原初の水
の深淵があった」

“ 上も下もなく、端の区別もなく、
終わりもなく、暗く、無限の、
果てしない深み”

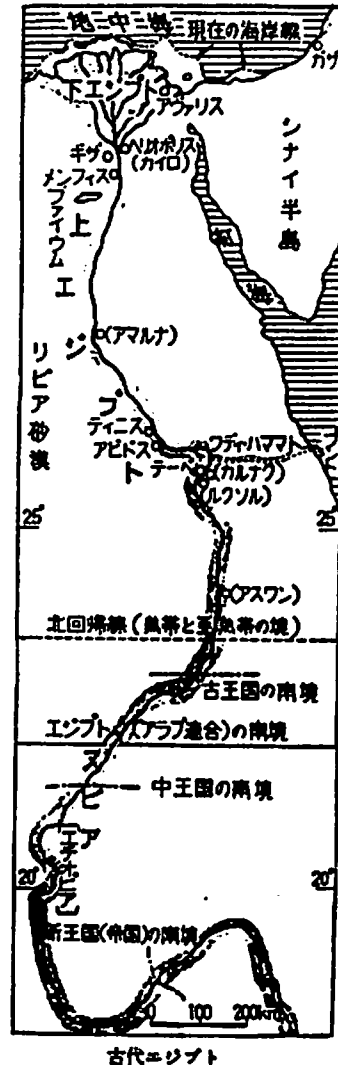
（⇔ 表面をもつ普通の海）

古代エジプト人の宇宙観：

世界は一つの空所、「原初の水」ヌン
の無限の広がりの中に浮かぶ” 気泡”

（⇔近現代人の世界観：

限りない空間を通して運動する一点の物質）



1) ヘリオポリスの宇宙観；人類の創造についての言及

「原初の水」であり、神神の父としてのヌン神（またはNu,ヌー）

その4つの特性（深淵、無限、暗黒および不可視性）のそれぞれが男女の姿で表されている；ナウとナウネト（深淵），フフとハウヘト（無限），
ククとカクウェト（暗黒），アムンとアマウネト（不可視性）。

「原初の水の深淵」からの天地創造の観念

初めには「原初の水」ヌンの中に母なる天（ヌイトNuit）と父なる地（シブSibu）
が互いに絡みあって静止していた。

創造の日に神シュー（Shu）がヌーから出現し、両手で天の女神ヌイトを抱えて差し上げた。

この女神は両手と両足を張って自分のからだを支え、それが星をちりばめた天穹となった。

2) ヘルモポリスの宇宙観, 3) メンフィスの宇宙観

[エジプトの主な神とその系譜]

アトゥム：両性具備の宇宙創造神

シュウ：湿気，雨の女神

テフネト：大気の女神

ゲブ：大地の男神

ヌト：天の女神

オシリス：穀物・耕作の男神，
死せる先王，来世の王

イシス：王座の女神

セト：砂漠の男神

ネプテユス：

ー以上，ヘリオポリスの九柱神ー

ホルス（幼名ハルポクラテス）：

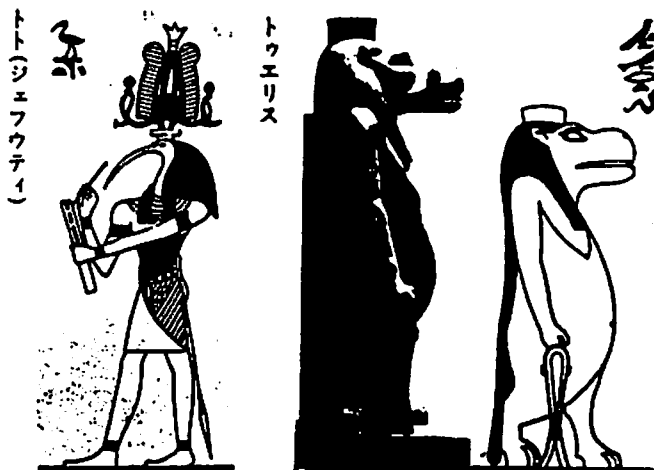
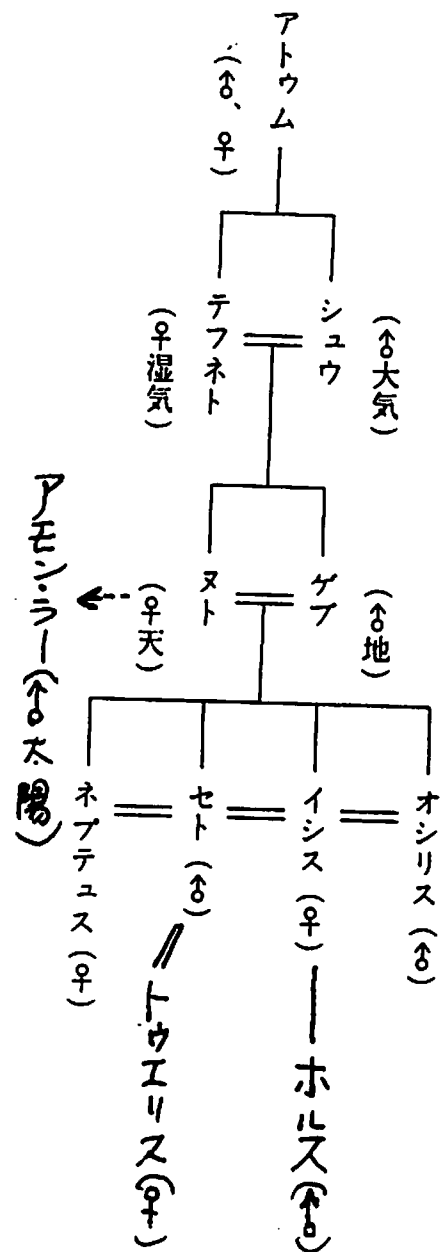
イシスの子供，現世の王

〈南エジプト王で南北エジプトを統一〉

アメン（アモン）・ラー：太陽の男神

トゥエリス：セトの妻で，妊婦を守り，
出産を助ける女神

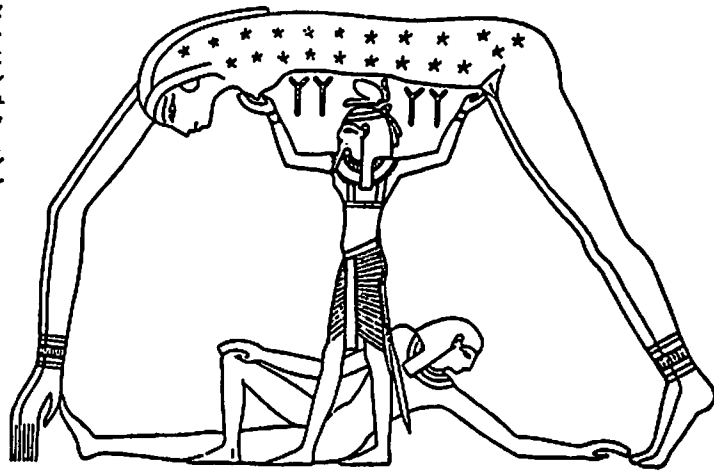
トト：鳥のトキの姿をしている神で，
学問，知識，計算，記録を司る神
（神界の書記）



南北合併後の複合王冠（アトゥムやホルスもこの王冠をつけることがある）



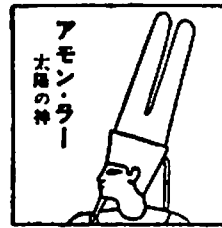
ヌトとシュウとゲブ



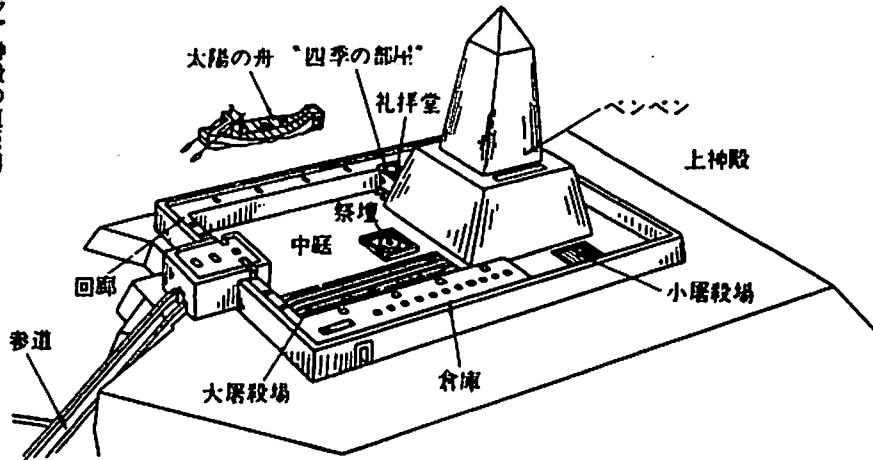
イシス、セト、ネフテュス(右より)

ゲブ、ヌト、オシリス(右より)





ラア神殿の復原図



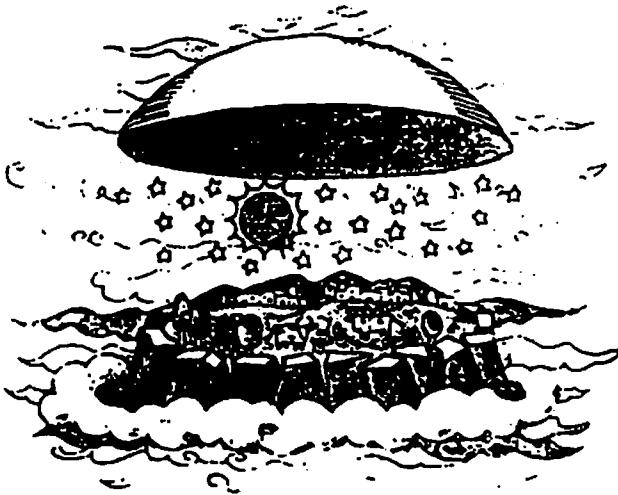
	前3000年	前2000年	前1000年
エジプト	古王国	中王国 ヒクソス	新王国(帝国)
地中海東岸	ダビデ・ソロモンの王国		
小アジア	ヒッタイト古王国 — 新王国		
メソポタミア	ウル第三王朝	サルゴン第三王朝 フルム第三王朝 ハンロン第三王朝	カッシイト ミタニ
イラン	アッシリア		

古代オリエント年表、

6天地創造以前の混沌と宇宙の構成要素の調和と全体としての秩序という観念

7階層構造をもつバビロニアの宇宙

星辰・天，大地（円盤），宇宙水界・地下界



同じ寸法と形の層が空間で隔てられて積み重ねられている。相違する層を支えるための宇宙の綱，相違する各層間の移動を（神神が）するための宇宙の梯，始原物質としての水；古代エジプト，ギリシャと共通

8生の継続を願う気持ちと「死者崇拝」

無時間の観念

9ユダヤ人，キリスト教への継承

参考文献：

- C.ブラックー， M.ローウェー，「古代の宇宙観」（海鳴社，1989年）
- S.A.アレーニウス「宇宙の始まり」（第三書館，1992年）
- 大森太良「海の神話」（講談社学術文庫，1993年）
- 織田武雄「地図の歴史－世界編」（講談社現代新書，1974年）
- 桜井邦明「天文考古学入門」（講談社現代新書，1982年）
- 三笠宮崇仁「古代エジプトの神神」（日本放送出版協会，1988年）
- 貝塚茂樹編「世界の歴史1」（中央公論社，1974年）